日刊 動労千葉
83. 8. 2
No. 1406
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

「8.8パイプライン供用開始」により激化する

組織破壊攻撃を粉砕しよう

8・8集会の成功にむけて シリーズ6

三里塚・反合闘争路線を武器に闘おう

八月八日のパイプライン供用開始は二期着工攻撃そのものです。これまでの五年間、燃料貨車輸送のハンドルを動労千葉の労働者にガッチリと握られてしまっていたという空港のアキレス腱がなくなることにより、いよいよ動労千葉に対する敵の組織破壊攻撃は本格化してくるものとみなければなりません。

われわれは、8・8集会を成功させ、三里塚・反合闘争のさらなる強化により、いかなる反動攻撃をもはね返す万全の組織体制をつくりあげようではありませんか。

8・8を契機に本格化する攻撃

動労千葉は政府・国鉄当局の空港への燃料輸送の強制に対し、五年有余の間ハンドルを武器に空港廃港にむけた闘いを貫いてきました。

とりわけ、八一年三月の五日間にわたるジェット燃料貨車輸送延長阻止の歴史的ストライキは、多くの犠牲をはらいつつも、敵に甚大な打撃を与え、闘う三里塚農民はもとより全国の闘う労働者・農民・住民に大きな感動と勝利への展望をさし示してきました。

この八月をもって、パイプラインが「完成」したことをもって、政府、権力、国鉄当局、動労「本部」革マルなどすべての反動勢力が、あさはかにも、「今こそ動労千葉への組織破壊攻撃をかけるチャンスだ」とばかりに、攻撃のスキをうかがっています。それは、この五年間、彼らが、いかに、わが動労千葉と労農連帯の底力に恐怖し、口惜しい思いをしてきたかの逆証明でもあります。

五月二十日の「6・12事件」での反動判決と、「有罪」をもってする当局と動労「本部」革マルの一体となった片岡、吉岡、篠塚三君への不当解雇策動であり、さらに七月七日の「6・7ゲリラ事件」を口実とした動力車会館への不当家宅捜索という組織破壊攻撃のエスカレートに、それは示されています。

他方、当局は「職場規律」の名のもとに、ワッペン、ステッカー、服装、脱帽運転、背面カーテン、時間内入浴に対する介入と処分のどう喝を加えており、職場抵抗闘争を圧殺することで、動乗勤改悪、59・2貨物合理化等を一気に強行し、動労千葉の職場支配権を奪いとろうとしています。

すなわち、「8・8」を区切り目として、〝動労千葉は労農連帯をなげすてよ〟三里塚と一線を画せ〟反合闘争・職場抵抗闘争などやめてしまえ〟というどう喝にほかなりません。

つまり、処分や弾圧をちらつかせて、労働者階級としての責務を放棄し、労働運動の原則をなげすてよ、と脅迫しているのです。

権力・当局の水先案内人をつとめる動労「本部」革マル

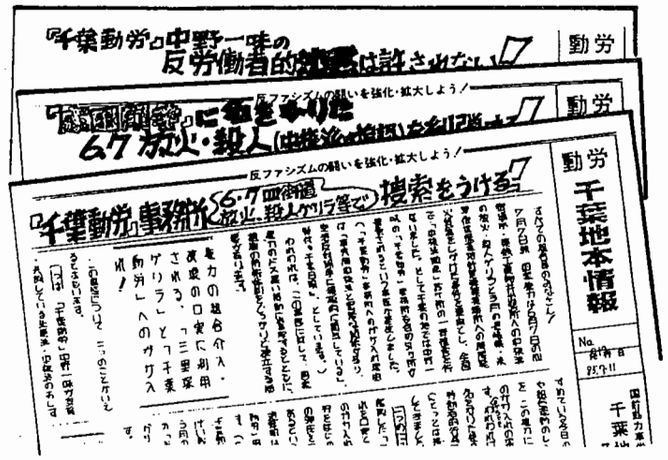
重要なことは、権力、当局の動労千葉破壊に、動労「本部」革マルが積極的に手を貸しているということです。

すなわち、動労「本部」革マルは、自らがデッチ上げ告訴した「6・12事件」の反動判決がでるや、直ちに三君の「解雇」を国鉄本社に要求したり、「6・7ゲリラ事件」に対して「デッチあげ千葉地本情報」を使って執拗に権力の弾圧を要請（権力はこれに応えて不当捜索）してきました。

そして、当局にタレこんで、千葉局の各職場の慣行・既得権の売り渡しと、動労千葉・国労への破壊攻撃の水先案内人になり下っています。

わが動労千葉は、ハンドルを握りしめた五年有余の闘いの中で、原則にのっとった生き生きとした労働運動と、なにものにもたじろがぬ組織体制をつくりあげてきました。

それは三里塚・反合を闘う労働運動という確固不動の路線によってであり、パイプライン供用開始情勢の中で、この正義の路線を最も強力な武器として、階級的警戒心を強め、闘っていこうではありませんか。8・8集会を突破口に、更なる前進をきりひらこう。



権力とマスコミの反動キャンペーンの尻馬にのって、連日、愚劣なデマ宣伝と弾圧要請をくり返した「本部」革マル。組合員宅への郵送まで行うという反動的はしゃぎぶり。組合員の怒りの前に一蹴された。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！